

Effects of Telmisartan and Candesartan on the Metabolism of Lipids and Glucose in Kidney Transplant Patients: A Prospective, Randomized Crossover Study

三浦, 敬史

<https://doi.org/10.15017/2348725>

出版情報 : 九州大学, 2019, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : (C) 2019 The Author(s). Transplantation Direct. Published by Wolters Kluwer Health, Inc. This is an open-access article distributed under the terms of the Creative Commons Attribution-Non Commercial-No Derivatives License 4.0 (CCBY-NC-ND).

氏 名： 三浦 敬史

論 文 名： Effects of Telmisartan and Candesartan on the Metabolism of
Lipids and Glucose in Kidney Transplant Patients: A Prospective, Randomized
Crossover Study

(腎移植患者におけるアンギオテンシンⅡ受容体拮抗薬の糖・脂質代謝改善効果の検討
：前向き、無作為化、クロスオーバー試験)

区 分： 乙

論 文 内 容 の 要 旨

腎移植後の患者さんは長らく患ってきた腎不全の状態と免疫抑制剤の影響で多くが高血圧を呈する。そのため降圧剤を内服するが、腎保護作用を要する降圧剤であるアンギオテンシンⅡ受容体阻害剤（以下 ARB）を服用することが多い。数ある ARB の中でテルミサルタンはペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 γ (PPAR γ) 作用を要するため理論上は血圧を下げるだけでなく、糖脂質代謝を改善することが期待され、抑制剤の副作用でもある糖脂質代謝異常の発生を抑制する効果が期待できる。これを検証するためにテルミサルタンとその他の ARB を代表しカンデサルタンを3ヶ月ごと服用してもらい、開始前と切り替え時期である3ヶ月と終了時の6ヶ月の時点で各種パラメーターを測定する、前向きなクロスオーバー試験を計画した。なお、計画時点から統計の専門家に介入いただき必要患者数を設定した上で、九州大学倫理委委員会の承認後に患者同意の元に行った。結果は中性脂肪と eGFR において統計学的にテルミサルタンが優位である結果であった。腎移植後の降圧剤の選択する際に大いに参考になる結果である。